



こどもを守る わたしたちを守る

園内におけるこども性暴力防止法の考え方

～ こども性暴力防止法（日本版DBS）にもとづく当園の取り組み～

1. BASIC STANCE

私たちの基本姿勢

こども性暴力防止法（日本版DBS）は、子どもへの性暴力を未然に防ぎ、安心して生活できる環境を整えることを目的としています。

私たちは法令を遵守するだけでなく、日々の保育環境や職員の関わりを見直しながら、子どもが安心して過ごせる環境づくりに取り組みます。



当園の考え方は、職員を監視するためのものではありません
子どもと職員、双方を守るための共通ルールとして運用します



子どもと職員
双方の安心

2. Q & A

保育現場でこんな疑問はありませんか？

Q 泣いている子を抱きしめることは「不適切」になるの？

A 子どもの信頼関係を築くために必要な関わりは「適切な保育」です。問題になるのは、子どもが嫌がっているのに長時間続けるなど、業務上の必要を超えた行為です。「なぜその援助が必要だったか」を説明できる保育を意識していきます。

Q 男性保育士がおむつ替えをしてはいけないの？

A ガイドラインは性別で排泄・着替え介助を禁止していません。大切なのは「特定の性別を排除するルール」ではなく、「複数の目が届く仕組み」を整えることです。性別に関係なく、組織全体で子どもを守る体制をつくります。

Q 洞窟コーナー園庭の土管・絵本の仕切りスペースなど狭い場所は廃止しないとイケないの？

A 子どもの居場所や情緒の安定に必要な死角を無くす必要はありません。大切なのは「死角に入るときの行動が見える化」すること。2人で別室へ行く際の声かけ・記録など、行動を透明にする仕組みで対応します。

3. 環境整備に関するルール①

着替え・シャワー時の配慮について



子どもの身体が必要以上に見える状況をつくらない



シャワー場所には目隠しを設置する



裸の状態で待機する時間を極力なくす



着替え場所が外部から見えないことを確認する



次の順番になってから下着や衣服を脱ぐ



子どもの羞恥心に配慮した声掛けを行う

3. 環境整備に関するルール②

外部からの視線への配慮について



来園者や保護者から着替え・シャワーの様子が見えない環境を整える



子育て支援事業利用者の動線と保育活動空間を整理する



必要に応じてパーテーション・布等を設置する



見学者や来客が子どもの着替え場面を目にしないよう配慮する

4. RESPECT FOR FEELINGS

子どもの気持ちを尊重します

子どもによって感じ方は異なるため、それぞれの思いを大切にします。

「恥ずかしい」

「見られたくない」

「一人で着替えたい」

一人ひとりの気持ちに応じた対応を行います。

年齢だけで判断するのではなく、その子の気持ちを受け止めながら援助します。



5. 職員の行動基準①

説明できる保育・1対1の環境を避ける



説明できる保育を行う

私たちの保育は常に、

「なぜその援助が必要だったのか」を
第三者に説明できるものであること

を、常に意識します。



1対1の環境を避けます

- ✓ 密室での対応を避ける
- ✓ 可能な限り複数の職員の目が届く環境で対応する
- ✓ やむを得ず個別対応する場合は周囲へ共有する
- ✓ 死角となる場所を把握し改善する

5. 職員の行動基準②

職員同士で守り合います



気になる場面は、立場や役職に関係なく
声を掛け合う



判断に迷う場合は管理職へ相談する



一人で抱え込まない・気づきを共有する



組織として課題を共有する



6. 園内チェックポイント

環境確認について

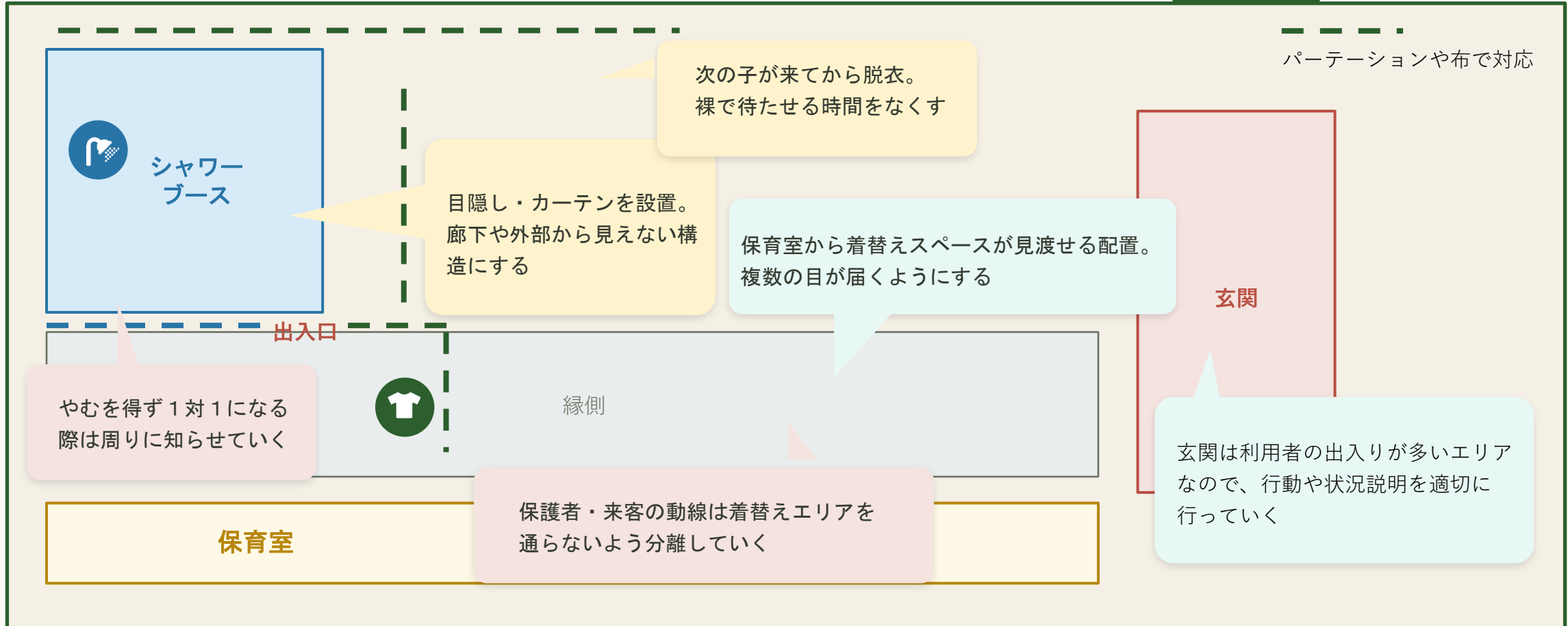
- ✔ 着替え場所が外部から見えない
- ✔ シャワー場所が適切に遮蔽されている
- ✔ 死角が発生していない
- ✔ 動線が整理されている
- ✔ 来客動線と保育動線が分離されている
- ✔ 理由なく別室に呼び出したり、私用端末で撮影しない

7. 環境の配置図

シャワー・着替え場所の配置と配慮ポイント



着替え
スペース



8. OUR COMMITMENT

私たちが意識していくこと

日々の着替え、排泄、シャワー、生活場面など、子どものプライバシーに関わる一つひとつの場面を見直しながら、次の安心を積み重ねていくことを意識していきます。



見られない安心



守られている安心



尊重されている安心

子どもへの性暴力を「起こさせない・見逃さない・疑念を招かない」環境づくりを進めるとともに、子どもと職員双方が安心できる保育環境を整えていきます。